舟形町と東京都港区を5Gでつなぐ！遠隔交流

最新技術を体験

10月29、31日、11月2日の3日間、舟形町と東京都港区を5G（第5世代移動通信システム）でつなぎ、遠隔交流を行いました。

これは、舟形町第7次総合発展計画の重点プロジェクトのひとつである「デジタルファーストプロジェクト」の一環として、総務課デジタルファースト推進室が行なったもので、舟形町と東京都港区双方で5Gを活用し、行政サービスへの利活用を検討することを目的としています。

舟形町と港区は、昭和48年から始まった児童交流を契機に、長年連携自治体として関係を築いており、このコロナ禍における新たな交流の形として、5Gを活用した交流を行いました。

10月29日と11月2日は舟形中学校のみなさんが、自分の見たい角度から自由に実験を見ることができるスワイプビデオを体験したほか、newmeという最新コミュニケーション型アバター（自分の分身）を操作し、舟形町に居ながら「みなと科学館」を見学しました。2年生は港区立赤坂中学校の1年生とオンラインでつながり、舟形町のPRをするなど交流を図りました。

また、10月31日には、舟形町農林漁業体験実習館とみなと科学館をつないだ交流も行いました。360度カメラを活用して、みなと科学館の来場者に舟形町の風景などをリアルタイムで見てもらいながら、舟形町の魅力を発信しました。

5Gとは

第5世代移動通信システムのことで、現在の第4世代移動通信システム（4G）と比べても、高速大容量・低遅延・多数同時接続ができるなどの特徴があります。この5Gは、医療や農業、身近な家電など、様々な分野での活用が期待されており、今後私たちの生活に大きく影響を与えるものとなります。

この度の町側の5G環境は、今年6月にサービスが開始されているNTTドコモの5Gを利用しました。町ではこれから広がっていく5G環境下で、新たな行政サービスへの利活用の検討を今後も進めていきます。

VRで港区を体験

5G体験と交流を行なって

3年生　伊藤　大空さん

東京にあるロボットを自分で操作して、その施設内を見ることができ、技術の進歩はすごいと思いました。また、遠隔で交流できるなら、有名なサッカー選手と一緒にサッカーをしている気分や体験ができるようになるとうれしいです。

2年生　庄司　采永さん

遠く離れた東京の中学生とつながることができたこと、そして、舟形町の魅力を伝えることができてよかったです。デジタルを使った旅行とかをすることができたら、離れたところでも身近に感じられると思いました。